

十島村教育委員会だより 令和2年9月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771



猛烈な台風10号

十島村教育長 有村 孝一

コロナ禍で台風が来たらどうしよう。そんな思いでいたところ、台風9号が発生してトカラ列島の西を通り、東シナ海を北上していきました。折しも9月1日は、二学期の始業式があるということで、かろうじて支障はなかったものの、昔から聞いていました立春から数えて二百十日という言葉思い出しました。このころは台風がよく来るということですが、やはりそうであったかと思いました。



今年、1951年の統計開始以来初めて7月に台風がなかったということです。しかし、8月になると一気に7個が発生しました。

そのような中、台風9号、10号と立て続けに九州に接近しました。9号は、9月2日に県本土に最接近しました。勢力も強く、中心気圧935ヘクトパスカル、最大瞬間風速70mで波の高さは十島村で9mとなり、その後九州の西海岸を北上していきました。そのころ9月1日には、台風10号が発生しました。後に、初めての島外避難をすることとなりますこの台風については、発生するやいなや、数十年に一度の強度の台風で、暴風・高潮・高波が予想される場合に出される特別警戒級という報道がありました。気象庁も「めったにない強度の台風に発達する可能性がある。週末を迎える前に備えをしてほしい」と呼びかけたくらいです。その後中心気圧915ヘクトパスカル、最大風速55mの「猛烈」な勢力に発達しました。

そのような状況下で、4日、村は、初の集団避難をすることとなりました。要配慮者を中心に子どもたちを含めた約200人が、自衛隊の大型ヘリで2日間にわたって島外避難を行いました。

台風は、悪石島、諏訪之瀬島を通過して、中之島では瞬間風速46mを記録しました。特別警報は見送られましたが、県内のあちらこちらで被害がありました。十島村でも被害はありましたが、予想したほどではなくほっとしたところでした。

今回、「大変大きな強力な台風です。」「これまで経験したこともないような台風になります。」「などの報道が連日なされるようになり、それに伴い住民の皆さんも用心し、結果として初めての島外避難となりました。人的被害がなかったのが一番でした。

台風の通過後、フェリーとしま2で2回に分けて帰島しました。わずかな時間で素早く行動しなければならぬなど、今回の避難で村も村民の皆さんも多くのことを学んだことと思います。これらの経験を、あつてはならないですが、次に何かあった時に生かしていきたいものです。

今月の「十島パワーにパチリ！」



今年、コロナウィルス感染拡大防止のために、全国のコンサートや講演会各種行事そして伝統芸能についても、中止や縮小される中で、色々な工夫がなされています。

2018年11月29日ユネスコ無形文化財に指定された「悪石島のボゼ」についても、ボゼ便の中止や台風等の影響で、縮小されておこなわれました。ボゼについては、いろいろとお聞きする機会が多いかと思いましたが、今回は、平成29年の学習発表会で披露され、今も引き継がれている「ハッパン大将」をご紹介いたします。以前は、ボゼ祭りの余興等で踊られていたそうですが、この年まで20年間途絶えていたそうです。当時の職員が、児童生徒に伝承させたいという思いで、島民の方々に歌や踊りの指導はもちろん、衣装や小道具の提供についても御協力いただき、披露に至ったそうです。その後も、伝承され、今年も披露されました。体験だけでなく、これも地域学校協働活動の一つの形ではないでしょうか。

地域が育む「かごしまの教育」県民週間（11月1日～11月7日）

詳細については、来月号でお知らせいたします。

【シリーズ】新聞に投稿

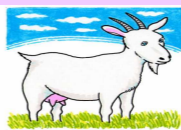
（令和2年9月2日南日本新聞「若い目」掲載）
悪石島小学校5年 藤澤 優真

みなさんは家に虫がでたことありますか。ぼくの家では、キッチンの電気をつけてみると、まどの外側にガがたくさん集まっています。わか家のアイドルに会えるからです。ガを食べばくとすばやい動きで次々とガを食べていく正体は、トカゲの「トカ」です。トカゲのトカやカをぬくと「カゲ」や「トゲ」になり、かわいそうだったの「トカ」になりました。トカのみみは、なんともいってもおなかのふりふりです。まどの内側から見ると、丸いおなかガラスの「かわいいな」と言っています。おなかさんも「かわいいな」と言っています。2人でずっと見ている時もあります。トカのお一人さまレストランのために、わざと電気をつけて、「夜ご飯」を準備している時もあります。トカに会えるのは、ぼくの今の幸です。



（令和2年8月4日 南日本新聞「若い目」掲載）
悪石島小学校5年 久永 大地

スズはお母さん スズが急に泣きだしました。体全体に力が入って、とても苦しそうにしていました。僕は2年前からヤギを飼っています。ついにきたと思っていました。カラヤギです。出産が近く、真っ黒な金太との間の子なので、牛みたいなのに白黒の子が生まれるのかなと楽しみに待っていました。スズが苦し始めて1時間くらいたったとき、おしりの方から体のようものが少しづつ見えってきました。「もう少し、もう少し」と応援すると、スズはそれに応えるように少しづつ高い声で鳴きました。びっしょりとぬれた赤ちゃんが一匹出てきました。「やったあ」と大きな声で喜びました。すると、何ともう一匹出てきました。小さくてかわいいオスとメスの赤ちゃんが一匹ずつ生まれました。スズがお母さんになったのです。夜、布団にもぐって名前を考えました。スズは、楽器の名前からつけたので、真っ黒なオスがトランアンケルの「ライ」、真っ黒なメスがタンバリンの「リン」と決めました。無事に生まれた新しい家族をこれからも大切に育てていきます。



おめでとうございます。

【第13回南日本ジュニア美術展】
特選 諏訪之瀬島小3年①辻幸奈さん
入選 諏訪之瀬島小2年②濱田幸奈さん
諏訪之瀬島小1年③長谷川カエラさん
諏訪之瀬島小1年④杉田 董さん



南日本ジュニア美術展
会場：鹿児島市立美術館



シリーズ・・・十島村で学ぶ

【悪石島で学ぶ】
悪石島中学校1年 片野田 楽

今年の夏、私は今までで一番島生活を満喫した。今年は台風もなかなか来なく、一日中暑かったため、海に行く日も多くなった。そのため、泳ぎも上達しているし、なんと足のつかないところでもスイスイ進めるように。



すると、島の方から、「船で入り江に行ってみる？」とさそってもらい、家族全員で船に乗り込んだ。弟たちは浮き輪をがっちりつかみ、準備万端だ。

しばらくすると、底まですけて見えるほどキレイな海が見えてきた。その中にはカラフルな魚と貝が……。まるで別の世界にいるような美しさだった。同じ場所で何時間も楽しめたのはこれが初めてであり、これから先、このような経験はないだろう。これまでは、港でしか泳げず、小魚や小さなカニなどしか見ることができなかったのに、力強く生きている悪石島の自然に直面して感動した。

「この島にはまだまだ、気づいていない美しい場所があるに違いない」という思いが沸き上がってきた。私はこの夏の体験を通してこの島が今まで以上に大好きになった。

あなたの島にも、誰も見たことのない絶景という宝が隠れているはずだ。皆さんも探してみたいかがだろうか。

【宝島小・中学校からのメッセージ】 教諭 尾家 一徳

宝島中学校に赴任し、はや5年になりました。私は、今思い返すとこの5年間があつという間に過ぎていったように感じます。赴任当初は、生活する上で身のまわりの全てのことをしなければならず、大変でした。今では、玄関のドアノブ交換などもできるようになり、自分なりに成長できたと感じています。

島や学校もこの5年間で、大きく変わりました。島外へ出る人、島外から移住してきた人、公共施設の充実、我が子の成長など日々私のまわりの状況が変わっていきます。今後、10年後、20年後の宝島は、どのように変わっていくのか想像もつきません。

ただ、その中で変わらないものがあります。それは、子どもたちの笑顔です。どんなときにも子どもたちの笑顔は素敵です。授業の中で、解決できない課題が解決できたとき、バドミントンで勝てなかった相手に勝ったとき、そんな場面で見せる子どもたちの笑顔を見ることができ、私自身指導してきて良かったと思える瞬間です。

今後、島の子どもたちは、成長し中学校を卒業すると島を離れて生活していかなければなりません。子どもたちがどのような課題に直面してもそれを乗り越え、笑顔を忘れない大人へ成長できるよう学習面や生活面のサポートを行いたいと思います。

私自身、初心の心を忘れず、島民の方々に子どもたちのお陰で今の自分があることを自覚し、学校が、子どもたちの笑顔であふれる場所になるよう今後も頑張っていきたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

すぐ目の前に小学生や中学生がいる環境が、今後の皆さんの長い教員人生の中で、とても素晴らしい経験をしたと感じるときがきます。お互いに小学校、中学校の垣根を越えて今いる子どもたちがどのように成長して欲しいか、大いに語り、その実現に向けて学校全体で取り組んでいきましょう。